

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
日本工学院八王子専門学校	昭和62年3月27日	山野 大星	〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人片柳学園	昭和31年7月10日	千葉 茂	〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	芸術専門課程	スポーツトレーナー科	平成25(2013)年度	-	平成26(2014)年度																														
学科の目的	スポーツ選手の障害予防・応急処置などを行うアスレティックトレーナー(AT)、様々な人たちにもっとも最適なトレーニング指導を行うパーソナルトレーナー(PT)を育成します。2年制ではATコースもしくはPTコースのどちらかを選択します。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	JSPO-AT、NSCA-CPT、JATI-ATI、健康運動実践指導者、ストレッチングトレーナー、日赤救急法救急員、コンディショニングインストラクター、ビジネス能力検定ジョブパス3級、幼児体育指導員 中退率:6.5%																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,700 単位時間 単位	1,605 単位時間 単位	360 単位時間 単位	1,830 単位時間 単位	0 単位時間 単位	540 単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																															
80人	93人	0人	0%	7%																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業生数(C)</td><td>24</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>23</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>21</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>16</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>91</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>76</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>88</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>2</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) クレディテック(株)、(株)B-ST、(株)BEYOND、(株)リラックス、(株)ILUTY、(株)N-Group、(株)BODY Run Alive soul、(株)グッドウエーブ、(株)RAIZAP、(株)ファクトリージャパン</p>							■卒業生数(C)	24	人	■就職希望者数(D)	23	人	■就職者数(E)	21	人	■地元就職者数(F)	16	人	■就職率(E/D)	91	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	76	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	88	%	■進学者数	2	人	■その他			
■卒業生数(C)	24	人																																	
■就職希望者数(D)	23	人																																	
■就職者数(E)	21	人																																	
■地元就職者数(F)	16	人																																	
■就職率(E/D)	91	%																																	
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	76	%																																	
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	88	%																																	
■進学者数	2	人																																	
■その他																																			
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 特定非営利活動法人 私立専門学校 等評価研究機構 受審年月: 平成26年3月 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																		
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/sports/trainer/																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A:単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>30 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>30 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>30 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>30 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B:単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>							総授業時数	30 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	30 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	30 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	30 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	30 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	30 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																		
うち必修授業時数	30 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	30 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																		
うち必修授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <table border="1"> <tr> <td>1人</td> </tr> </table>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	2人	1人															
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																		
計	2人																																		
1人																																			

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

スポーツトレーナー分野(スポーツ・健康・医療・福祉の産業)に関して、企業等へのヒアリングを実施。PDCAサイクルに従い、実務に関する知識・技術・必須な資格等を調査しカリキュラムに反映させる。授業科目のシラバスをもとに科目担当教員と企業講師(職実申請コース関係の資格取得者)との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また学習評価を踏まえ、授業内容・方法等について検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
長谷川 賢宏	有限会社ケッズ・グループ代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
工藤 雅彦	T-CONNECT JAPAN 株式会社 執行役員	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
杉浦 晋	日本工学院八王子専門学校 科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月・8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年09月04日 09:30～11:30

第2回 令和6年03月06日 09:30～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

コロナ前の状況に戻つつあり求人は増えている。健康志向のニーズが高まり、特にストレッチングは人気がある。企業として活躍できる人材が欲しいのは変わらず、大人としての立ち振る舞いを求めたい。まずは「資格取得をするよう教育する」「人間力の向上」「Input-Outputの循環として可能な範囲で実習の強化」を図り、授業内容・クラス分け・実習の仕組みを変えた。

暗記系科目のモチベーションが低い傾向が強まっている。教員の指導力向上、学生への動機づけ、キャリア指導を重ねて実施していく。学生とは年間を通じて複数回の個別面談を実施し、個人に寄り添いながら成長を促している。

多種多様な経験(実習含む)や資格取得をさせ、自信を持って就職できるようサポートする。

時代の流れを前提にICT・IOTを利用した健康サポートが重要だと認識し、教員研修として継続的に実施。

また近年の学生や保護者対応を高める研修も実施し、将来を担う学生の最適なサポートについて教員力向上を図る。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 企業(株式会社ルートヴィガー)との打ち合わせにより、現状求められる職業人としての「スポーツトレーナー」に必要な技能・実習内容や評価方法を設定し目標を明確にする。実務に必要な各種コンディショニング、企業が実施する仕事内容や今後力を入れていく内容を踏まえて「予防とコンディショニング2(30時間)」にて実施。AT・PTとして必須スキルである各種コンディショニング実技に関して、メディカルフィットネスセンターにて、企業ノウハウを踏まえて学ぶ。
 また人間力・ヒューマンスキルを含めて学習を進め、公認アスレティックトレーナーの資格を有するプロによる専門知識・技術の指導に加え、各種検査・測定と評価を適宜実施し、レベル確認を行いながら実技授業を進める。企業等の講師派遣による実施テスト評価に基づき教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
予防とコンディショニング2	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	コンディションの把握・管理・方法と実際について学びます。また、競技特性に応じたコンディショニングや環境整備についても学びます。	株式会社ルートヴィガー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 講義と実習、演習の精度を高め、安全に授業を進めるため、関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の知識、技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績
 ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	カリキュラム・指導とスポーツの職業への発展①	連携企業等:	株式会社インターナショナルスポーツマーケティング マネジャー島田和茂
期間:	令和5年9月7日 10:00-12:00	対象:	スポーツ教員
内容:	専門力を活かす指導とカリキュラム作成のヒントを得る		
研修名:	カリキュラム・指導とスポーツの職業への発展②	連携企業等:	株式会社インターナショナルスポーツマーケティング マネジャー島田和茂
期間:	令和6年3月21日10:00-11:30	対象:	スポーツ教員
内容:	専門力を活かす指導とカリキュラム作成のヒントを得る		

②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	学生指導・保護者サポートのための教育力向上②	連携企業等: 株式会社ヒトスパイス 代表取締役社長 野本知里
期間:	令和5年9月4日 15:30-17:30	対象: スポーツ教員
内容	コーチングを軸とした学生指導と保護者サポート力向上	
研修名:	学生指導・保護者サポートのための教育力向上②	連携企業等: 株式会社ヒトスパイス 代表取締役社長 野本知里
期間:	令和6年3月5日 15:30-17:00	対象: スポーツ教員
内容	コーチングを軸とした学生指導と保護者サポート力向上	
(3) 研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	スポーツ・健康サポート×IOT・ICT	連携企業等: (公財)日本サッカー協会 大塚慶輔
期間:	9月を予定	対象: スポーツ教員
内容	遠隔での指導・商品紹介と使い方	
研修名:	スポーツ・健康サポート×IOT・ICT	連携企業等: (公財)日本サッカー協会 大塚慶輔
期間:	3月を予定	対象: スポーツ教員
内容	遠隔での指導と実例	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	救急体制と対応について	連携企業等: 国土館大学防災・救急救 助総合研究所 曾根悦子
期間:	9月を予定	対象: スポーツ教員
内容	①安全な学校生活の環境整備や体制 ②救急事例と対応	
研修名:	救急体制と対応について	連携企業等: 国土館大学防災・救急救 助総合研究所 曾根悦子
期間:	3月を予定	対象: スポーツ教員
内容	①救急事例と対応 ②救急対応と法的問題 ③職業教育を実施する教員として備えるべき救急対応に関しての能力	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。
 学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について
 評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

- ・学生に選ばれるための施策(新規獲得)と教職員の採用、満足度向上など課題が多い中ではありますが、意見交換や連携などをして多摩地域の就職に強い専門学校と多摩地区で必要とされる企業で魅力を伝え、発展をしていければと思います。
- ・現場の最前線で活躍する地元企業の専門家に講師をお願いし、ターゲットを明確にした授業などを実施してみてもどうか。
- ・報告内容にe-ラーニングで就職後に役に立つ学内資格の創設と受験動奨を実施すること、教諭の待遇改善とコンプライアンス順守などがテーマでしたが、業界により職種と担当業務によって必要とされるスキルが違うので、この資格があれば就職に有利というものを一概にお答えすることはできません。弊社では総合職採用としているので、持っている資格によって配属が決まってしまう可能性もあります。業界内の仕事をもっとスペシャリストを必要とする流れになれば良いのですが、今は何でもできる人が重宝されていることも事実です。
- ・教員の待遇改善については、先生のレベル・待遇が上がれば授業の質が上がると想像できますので引き続きこの取り組みを継続していただくことに賛成します。
- ・学生への思いや取り組み、社会のニーズに対応して行こうとされている姿勢に感激しており、マイナス評価をする要因がございませんでした。
- ・ハラスメントについては組織運営の中で非常に重要な部分であり、時代の流れや環境の変化に対応したコミュニケーション能力が求められると思います。教員と学生となると育ってきている時代背景が全く異なり、価値観や考え方もその時代の影響が根本にあるかと思えます。また職員同士も同様です。貴校ではハラスメント研修を実施しているかと思いますが、それが貴校全体に広まって行けば良いかと思えます。ただハラスメントを重要視し過ぎてしまい、変な勘違いをしたり、萎縮したりして、何でもかんでもハラスメントと訴えてこないような状況にして頂ければと思います。バランスが難しいかと存じます。
- ・コロナ禍がスッキリ明けたと言えない状況ですが、コロナ禍の真っ只中で授業を受けられていた学生と、新入生とモチベーションのズレが今後出てこなければ良いかと思えます。教職員の皆様もコロナ前に戻る回復力が大変ではないかと察します。日本工学院八王子専門学校が第一志望の学校となるよう微力ではございますが、何なりとご相談いただければと思います。
- ・全体的に特記事項については、過去3年ぐらいの実績が書かれていれば良いかと思えます。それ以上前のことが書かれていると進化が止まっているような印象を持ちますので、もし記載するのであれば、改善、実施した結果が書かれていると良いと思えます。
- ・教職員研修は、実施されると思いますがこれからもどうか業務として認めていただけることも合わせてお願いします。しかし自己研鑽という形ですまないようお願いいたします。
- ・保護者会は今後も対面、オンラインなどハイブリット式を継続していただければと思います。
- ・毎回ご説明を伺うたびに着実に学校運営を進展されていることに敬意を表したいと思います。殊にコロナ禍における授業のあり方について学生の要望に沿った改革を着実に図っていることは学が側に取ってとて有難いことかと思われま。また会議の折にもお話いただきましたが対面授業とオンライン授業のハイブリットにおいて如何に学生とのコミュニケーションを取るかについてはご苦労された成果がよくわかりました。ただフィードバックのやりすぎということは無いかと思えますので更なる取り組みを期待しています。高等教育機関の多くが学生募集に苦慮している昨今、選ばれる学校としての特色づくりに精励されているお話も大いに評価されるべきところ。益々のご発展を期待して次回にうかがえることを楽しみにしております。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の5点について検討し活用する。

1. 社会のニーズに対応するため、新設学科の検討を行う。
2. 第一志望の学校に選ばれるため教育の質の向上を図る。そのため教員の業務負担の軽減、教育研修の実施、研究授業等に取り組んで行く。
3. 企業連携を強化し、地元企業で活躍する実務者に講義を行ってもらい、専門教育の充実を図る。
4. 教職員がコンプライアンスの大切さを理解し、学校ハラスメント防止に徹底した取り組みを行う。
5. 教職員の満足度調査を引き続き実施し、問題点の洗い出しを行い、満足度向上を目指す。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生／企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 取締役 マーケティング戦略室 室長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
矢野 俊宏	株式会社田中建設 取締役 営業本部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>
公表時期: 令和6年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。
また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育人人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和5年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>
公表時期: 令和6年9月30日

授業科目等の概要

(芸術専門課程 スポーツトレーナー科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネススキル1	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	1・前	30	2	○			○			
2	○			ビジネススキル2	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	1・後	30	2	○			○			
3	○			PC活用	コンピュータのしくみから基本操作までを学びます。	1・前	30	2	○		○			○	
4			○	MOS	マイクロソフト認定Word、Excel資格取得に向けて、必要な基礎知識を学びます。	1・後	30	2	○		○			○	
5			○	ストレングス&コンディショニング理論1	ストレングス&コンディショニングプログラムを作成するための基礎知識を学びます(フィットネスエクササイズと安全も含む)。	1・前	30	2	○		○		○		
6			○	スポーツトレーナーの役割	アスレティックトレーナーとは何かを学び、コーチやスポーツドクターとの連携、組織の運営と管理などアスレティックトレーナー業務全般について学びます。	1・前	30	2	○		○		○		
7	○			救急処置法	スポーツ現場で発生した傷害や疾病などの処置方法について学びます。	1・前	30	2	○		○			○	
8			○	予防とコンディショニング理論	コンディションの把握・管理・方法と実際について学びます。また、競技特性に応じたコンディショニングや環境整備についても学びます。	1・前	30	2	○		○		○		
9			○	運動器の解剖と機能1	上下肢および体幹部の基礎解剖学と運動学について学びます。	1・前	30	2	○		○			○	
10	○			解剖学概論	骨格、筋肉、心臓、血管、呼吸器、神経などの構造と機能について学びます。	1・前	30	2	○		○			○	
11			○	コーチ学	スポーツ指導者とは、指導者の心構え・視点、競技者育成プログラムの理念、指導計画の立て方、スポーツ活動と安全管理、スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任などについて学びます。	1・後	30	2	○		○		○		
12			○	ストレングス&コンディショニング理論2	目的に応じたストレングス&コンディショニングプログラムの作成能力やカウンセリング能力を養います。	1・後	30	2	○		○		○		
13	○			スポーツ医学概論	スポーツと健康、スポーツ活動中に多いケガや病気、アスリートの健康管理と内科的障害と対策、呼吸循環器系の働きとエネルギー供給、アンチドーピング、スポーツによる精神障害などについて学びます。	1・後	15	1	○		○			○	
14	○			運動生理学	スポーツ活動と体力、運動体としての身体の構造と機能について学びます。	1・後	30	2	○		○			○	
15	○			栄養学	スポーツと栄養、アスリートの栄養摂取と食生活について学びます。	1・後	15	1	○		○			○	
16			○	アスレティック・リハビリテーション1	アスレティックリハビリテーションの考え方と運動療法の基礎について学びます。	1・後	30	2	○		○		○		
17			○	アスレティック・リハビリテーション2	物理療法と補装具使用に関する基礎知識を学び、身体の各部位の外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラムと実践を学びます。	1・後	30	2	○		○		○		
18			○	運動器の解剖と機能2	上下肢および体幹部の基礎解剖学と運動学について学びます。	1・後	30	2	○		○			○	
19			○	トレーニング科学1	競技者育成と評価、競技者育成システムにおける指導計画、競技力向上のためのチームマネジメント、競技スポーツとIT、体力とは、トレーニングの進め方、トレーニングの種類について学びます。	1・後	30	2	○		○		○		
20			○	スポーツ外傷・障害の基礎知識1	スポーツで起こりうる外傷全般と年齢・性別によるスポーツ障害の特徴、それに対する整形外科的メディカルチェックについて学びます。	1・通	30	2	○		○			○	

(芸術専門課程 スポーツトレーナー科)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	資格対策1	AT・JATI・CPT資格取得のために対策講義・模試等を実施します。	1・前	30	2	○		○		○			
		○	資格対策2	AT・JATI・CPT資格取得のために対策講義・模試等を実施します。	1・前	30	2	○		○		○			
		○	資格対策3	AT・JATI・CPT資格取得のために対策講義・模試等を実施します。	1・後	30	2	○		○		○			
		○	資格対策4	AT・JATI・CPT資格取得のために対策講義・模試等を実施します。	1・後	30	2	○		○		○			
○			ストレングス&コンディショニング実技1	準備運動、ストレッチング、補強運動、フィットネストレーニング、筋カトレニング(マシントレーニング)などの基本テクニックについて学びます。	1・前	30	1		○	○			○		
○			メディカルトレーナー演習1	メディカルトレーナーに必要な基礎知識として、解剖学、運動生理学、ストレッチングなどを学びます。	1・前	30	2	○		○			○		
		○	予防とコンディショニング1	テーピングの手法について学びます。また競技特性に応じたコンディショニングや、環境整備についても学びます。	1・前	30	1		○	○		○			
○			予防とコンディショニング2	コンディションの把握・管理・方法と実際について学びます。また、競技特性に応じたコンディショニングや環境整備についても学びます。	1・前	30	1		○	○			○	○	
○			陸上	陸上、ジョギング・ウォーキングの特性について理解し、年齢別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・前	30	1		○	○			○		
		○	アウトドア実習A	オートキャンプ、カヌー、トレッキングなどのアウトドアライフの組立てについて、実習を通じて学びます。	1・前	30	1		○		○		○		
		○	キャンプインストラクター実習A	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	1・前	30	1		○		○		○		
		○	マリンスポーツ実習A	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	1・前	30	1		○		○		○		
		○	初級ダイビング実習	スクーバダイビング「オープンウォーター」資格取得のために必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	1・前	30	1		○		○		○		
		○	フィンワーク実習	プールにて3点セット(マスク、フィン、スノーケル)を使用し、フィンワーク(泳ぎ方、素潜り)技術を養います。	1・前	30	1		○	○			○		
		○	スイミング	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・前	30	1		○	○			○		
		○	ストレングス&コンディショニング実技2	マシンやフリーウエイトを使用した筋カトレニング、サーキットトレーニング、アジリティトレーニングなどの基本テクニックについて学びます。	1・後	30	1		○	○			○		
○			メディカルトレーナー演習2	メディカルトレーナーに必要な、エクササイズ指導のスキルを身につけます。	1・後	30	2	○		○			○		
		○	スキー実習A	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1		○		○		○		
		○	スノーボード実習A	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1		○		○		○		
		○	現場実習2	トレーナーがどのような役割を果たしているのか、基礎的な学びと実習体験を行います。	1・後	60	2		○	○		○			
		○	中級ダイビング実習	スクーバダイビング「アドバンスダイバー」資格取得のために必要な知識・技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	1・後	30	1		○		○		○		
		○	健康運動実践指導者対策1	生活習慣病予防のための運動実践について学びます。	1・後	30	2	○		○		○			

(芸術専門課程 スポーツトレーナー科)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	MFCスタッフ実習1	MFC(メディカルフィットネスセンター)スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいます。	1・通	120	4		○	○		○			
		○	スポーツトレーニング実習A	メディカルフィットネスセンターなどを週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。	1・通	30	1		○	○		○			
		○	スポーツトレーニング実習B	メディカルフィットネスセンターなどを週1回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。	1・通	60	2		○	○		○			
		○	スポーツトレーニング実習C	メディカルフィットネスセンターなどを週2回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。	1・通	120	4		○	○		○			
		○	スポーツ自由研究A	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・通	30	1		○	○		○			
		○	スポーツ自由研究B	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・通	30	1		○	○		○			
		○	現場体験実習A	今まで勉強してきたことについて、総合的に学内外で実習します。	1・通	30	1		○	○		○			
		○	社会体育実習A	学外などにおいて現場の実践的な経験やボランティア活動をし、指導者としての資質を高めます。	1・通	60	2		○		○	○			
		○	短期海外研修A	アメリカの州立大学などにおいて人体解剖、テーピング、コンディショニングなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育についての理解を深めます。	1・通	30	1		○		○		○		
		○	日本赤十字社救急法A	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	1・通	30	1		○	○			○		
		○	AT演習1	現場実習での経験・知識を生かして、ゼミ形式で授業を行います。	1・通	60	4		○	○		○			
		○	CPT演習1	パーソナルトレーナー(CPT)・JATI認定トレーニング指導者受験に向けて学習します。	1・通	30	2		○	○		○			
	○		現場実習1	トレーナーがどのような役割を果たしているのか実習事前指導をします。	1・前	15	0		○	○		○			
		○	キャリアアップセミナーA	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	15	0		○	○			○		
		○	キャリアアップセミナーB	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	30	1		○	○			○		
		○	キャリアアップセミナーC	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	45	1		○	○			○		
		○	キャリアアップセミナーD	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	60	2		○	○			○		
		○	キャリア実習1	スポーツトレーナーとして活躍するために、企業などで実習を行います。	1・通	15	0		○		○	○			
	○		コーチング概論1	コーチングについてアクティブラーニング形式を中心に学びます。	1・前	30	2		○	○		○			
	○		コーチング概論2	グッドコーチに求められる医・科学知識や現場・環境に応じたコーチングを学びます。	1・後	30	2		○	○		○			
	○		ビジネススキル3	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	2・前	30	2	○		○		○			
	○		ビジネススキル4	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	2・後	30	2	○		○		○			
	○		ストレングス&コンディショニング理論3	ストレングス&コンディショニング理論1・2で学んだ知識を活用しながら、パーソナルトレーナーとしての知識と総合力を養います。	2・前	30	2	○		○		○			

(芸術専門課程 スポーツトレーナー科)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 修	自 由 選 修						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
66	○		スポーツ心理学1	スポーツと心、スポーツにおける動機づけ、コーチングの心理、メンタルマネジメント、指導者のメンタルマネジメント、スポーツ相談の意義、スポーツ相談の実際、子どもたちを取り巻く問題点と運動・スポーツの必要性などについて学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
67	○		バイオメカニクス	トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその実際、体力テストとその活用、スキルの獲得とその獲得過程、スポーツバイオメカニクスの基礎を学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
68		○	アスレティック・リハビリテーション3	競技特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラムについて学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
69		○	スポーツ経営学	スポーツ組織の運営、スポーツ事業の計画・運営・評価、地域スポーツクラブの機能と役割、広域スポーツセンターの機能と役割、地域におけるスポーツ振興方策と行政の関わり、我が国のスポーツ振興施策について学びます。	2・前	15	1	○			○		○		
70		○	検査・測定と評価	アスレティックトレーナーに必要な評価・検査・測定的手法、スポーツ動作の観察・分析について学びます。	2・前	60	4	○			○		○		
71		○	スポーツと食事	アスリートの身体組成から始まり、からだ作りやトレーニングスケジュール、栄養管理・水分管理・サプリメントの留意点、特殊環境と栄養に関する疾病、アスリートへの栄養教育について全般的に学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
72		○	トレーニング科学2	アスレティックトレーナーに必要なトレーニング科学を総合的に学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
73		○	健康教育学	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴、発育発達期に多いケガや病気、発育発達期のプログラムなどについて学びます。	2・前	15	1	○			○		○		
74		○	体力測定法	体力測定の方法、測定結果の処理、体力評価とスポーツプログラムについて学びます。	2・前	15	1	○			○		○		
75		○	障害者スポーツ	障害者に対するスポーツ指導法を学びながら、(財)日本障害者スポーツ協会初級スポーツ指導員の資格取得をめざします。	2・後	30	2	○			○		○		
76		○	スポーツ心理学2	スポーツ相談の概念・目的、カウンセリングの理論と技術、スポーツ相談事業の企画と運営などについて学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
77		○	スポーツ外傷・障害の基礎知識2	スポーツで起こりうる外傷全般と年齢・性別によるスポーツ障害の特徴、それに対する整形外科的メディカルチェックについて学びます。	2・通	30	2	○			○		○		
78		○	健康管理とスポーツ医学	感染症や特殊環境を含む、スポーツで起こりうる内科疾患を学び、年齢・性別によるその特徴と内科的メディカルチェック・ドーピングについて学びます。	2・通	30	2	○			○		○		
79		○	資格対策5	AT・JATI・CPT資格取得のために対策講義・模試等を実施します。	2・前	30	2	○			○		○		
80		○	資格対策6	AT・JATI・CPT資格取得のために対策講義・模試等を実施します。	2・前	30	2	○			○		○		
81		○	資格対策7	AT・JATI・CPT資格取得のために対策講義・模試等を実施します。	2・後	30	2	○			○		○		
82		○	資格対策8	AT・JATI・CPT資格取得のために対策講義・模試等を実施します。	2・後	30	2	○			○		○		
83	○		ストレングス&コンディショニング実技3	筋力トレーニング、アジリティトレーニング、ランニングトレーニングなどの応用テクニックと指導方法について学びます。	2・前	30	1		○	○			○		
84	○		メディカルトレーナー演習3	メディカルトレーナーに必要な、全体の基礎的なスキルを身につけます。	2・前	30	2	○		○			○		

(芸術専門課程 スポーツトレーナー科)														
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	アウトドア実習B	オートキャンプ、カヌー、トレッキングなどのアウトドアライフの組立てについて、実習を通じて学びます。	2・前	30	1		○		○		○	
		○	キャンプインストラクター実習B	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	2・前	30	1		○		○		○	
		○	マリン実習B	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	2・前	30	1		○		○		○	
		○	上級ダイビング実習	スクーバダイビング「ダイブマスター」資格取得のために必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	2・前	30	1		○		○		○	
		○	AT演習2	現場実習での経験・知識を生かして、ゼミ形式で授業を行います。	2・前	60	4		○		○		○	
		○	CPT演習2	パーソナルトレーナー(CPT)・JATI認定トレーニング指導者受験に向けて学習します。	2・前	30	2		○		○		○	
		○	健康運動実践指導者対策2	生活習慣病予防のための運動実践について学びます。	2・前	30	2		○		○		○	
○			メディカルトレーナー演習4	メディカルトレーナーに必要な、全体の応用的なスキルを身につけます。	2・後	30	2		○		○		○	
		○	スキー実習B	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2・後	30	1		○		○		○	
		○	スノーボード実習B	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2・後	30	1		○		○		○	
		○	AT演習3	現場実習での経験・知識を生かして、演習形式で授業を行います。	2・後	60	4		○		○		○	
		○	CPT演習3	パーソナルトレーナー(CPT)・JATI認定トレーニング指導者受験に向けて学習します。	2・後	60	4		○		○		○	
		○	健康運動実践指導者対策3	生活習慣病予防のための運動実践について学びます。	2・後	30	2		○		○		○	
		○	スタジオプログラム	スポーツクラブでは主流のスタジオプログラム。パワーヨガ、マットピラティスなどその種類は多種多様です。スタジオプログラムの主要な運動についての知識、技術について基礎を学びます。	2・後	30	1		○		○		○	
		○	フィットネストレーナー演習	メディカルフィットネスセンターなどを利用して、トレーニングルームの運営方法やクライアントとの接し方、法的問題について学びます。	2・後	30	2		○		○		○	
○			成果発表	在学中に学んだ成果事を基に、成果発表のための企画・準備・運営を実施します。	2・通	90	6		○		○		○	
		○	MFCスタッフ実習2	MFC(メディカルフィットネスセンター)スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。	2・通	120	4		○		○		○	
		○	インターンシップ1	スポーツ関連企業でインターンシップを経験します。	2・通	45	1		○		○		○	
		○	スポーツトレーニング実習D	メディカルフィットネスセンターなどを週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。	2・通	30	1		○		○		○	
		○	スポーツトレーニング実習E	メディカルフィットネスセンターなどを週1回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。	2・通	60	2		○		○		○	
		○	スポーツトレーニング実習F	メディカルフィットネスセンターなどを週2回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。	2・通	120	4		○		○		○	
		○	スポーツ自由研究C	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・通	30	1		○		○		○	
		○	スポーツ自由研究D	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・通	30	1		○		○		○	

(芸術専門課程 スポーツトレーナー科)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	現場実習3	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの規定実習を行います。	2・通	180	6		○	○		○			
		○	現場体験実習B	今まで勉強してきたことについて、総合的に学内外で実習します。	2・通	30	1		○		○	○			
		○	社会体育実習B	学外などにおいて現場の実践的な経験やボランティア活動をし、指導者としての資質を高めます。	2・通	60	2		○		○	○			
		○	短期海外研修B	アメリカの州立大学などにおいて人体解剖、テーピング、コンディショニングなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育についての理解を深めます。	2・通	30	1		○		○		○		
		○	日本赤十字社救急法B	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	2・通	30	1		○	○			○		
		○	キャリアアップセミナーE	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	15	0		○	○			○		
		○	キャリアアップセミナーF	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	30	1		○	○			○		
		○	キャリアアップセミナーG	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	45	1		○	○			○		
		○	キャリアアップセミナーH	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	60	2		○	○			○		
		○	キャリア実習2	スポーツトレーナーとして活躍するために、企業などで実習を行います。	2・通	15	0		○		○	○			
合計						117	科目	4335時間 206単位			単位(単位時間)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 卒業時に必修科目765時間(46単位)および選択科目935時間(29単位)以上取得し、合計1700時間(75単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期
履修方法: 1年次は必修435時間、選択科目415時間以上履修すること 2年次は必修330時間、選択科目520時間以上履修すること	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。